

參考資料

資料 1

新計画に掲げる目標一覧

新計画に掲げる目標の設定については、下表のとおり、すでに実施済みのものや事業・取組として確立できているもの等の削除など、前計画に掲げた目標の見直しを行うとともに、新たな目標の設定に努め、他県に先駆けた施策を含め、様々な施策・事業を総合的に推進していくこととしています。（★新規目標：20、○継続目標：21）

環境指標	現況（基準年度）	目標値（目標年度）
1 再生可能エネルギーの導入促進・地球温暖化対策の推進		
○太陽光発電（一般家庭等）の導入	113,048kW(H24)	225,000kW(H32)
★太陽光発電（メガソーラー）の導入	11,000kW(H24)	100,000kW(H32)
★中小水力発電の導入	25か所(H24)	33か所(H32)
★バイオマス（発電）の導入	80,166kW(H24)	84,146kW(H32)
★バイオマス（熱利用）の導入	107件(H24)	148件(H32)
○山口県地球温暖化対策実行計画に基づき、県内の温室効果ガスの排出を削減		
○県庁における二酸化炭素排出量の削減	30,903 t (H24)	H24比5%削減 (H29)
○適切な森林整備 ・スギ・ヒノキ人工林の森林整備量	50,582ha (H16～H24)	58,400ha (H25～H32)
★バイオマス（林地残材）利用率	43% (H23)	70% (H32)
★EV等次世代自動車（当該年度の新車販売台数に占める割合）	15% (H24)	50% (H32)
★EV用急速充電器	23基(H24)	90基(H28)
2 循環型社会の形成		
○1人1日当たりの家庭排出ごみ排出量	557g/日(H23)	520g/日(H27)
○一般廃棄物のリサイクル率	27.9% (H23)	40.0% (H27)
○一般廃棄物の最終処分量	51千t/年(H23)	38千t/年(H27)

環境指標	現況（基準年度）	目標値（目標年度）
○産業廃棄物の総排出量	8,179千t/年(H20)	8,097千t/年(H27)
○産業廃棄物のリサイクル率	55.0%(H20)	56.0%(H27)
○産業廃棄物の最終処分量	463千t/年(H20)	356千t/年(H27)
○ダイオキシン類排出量	99%削減(H9比)	99%削減(H32)
<p>★県内で開催される大規模イベントに合わせ、「県民一斉環境美化活動促進期間」を設定（大規模イベントが開催されない場合は、当該年度の重点取組を定め、その取組内容に即した期間を設定）</p> <p>※平成32年度の目標値については、平成27年度策定予定の第3次「山口県循環型社会形成推進基本計画」で設定予定です。</p>		
3 いのちと暮らしを支える生物多様性の保全		
★世界ジオパーク認定件数	0件(H24)	1件(H32)
★希少野生動植物種保護支援員数（累計）	741人(H24)	1,000人(H32)
★鳥獣保護区指定箇所数	81か所(H25)	現状維持(H28)
★特定外来生物確認数	17種(H24)	新たに定着させない(H32)
○水源の森の整備	22,054ha(H24)	28,000ha(H32)
○1人当たりの都市公園の面積	14.0㎡/人(H24)	15.8㎡/人(H32)
★豊かな流域づくり取組箇所数	3か所(H25)	8か所(H32)
★エコやまぐち農産物認証件数	290件(H23)	500件(H28)
★生物多様性の認知度	28.6%(H24)	75.0%以上(H32)
★エコツーリズム推進団体数	1団体(H25)	5団体(H32)
4 大気・水環境等の保全		
○大気、水質等の環境基準の達成・維持		
□大気関係 ・ 二酸化硫黄	100%(H24)	100%(H32)
・ 二酸化窒素	100%(H24)	100%(H32)
・ 一酸化炭素	100%(H24)	100%(H32)

環境指標	現況（基準年度）	目標値（目標年度）
□水質関係 ・海域（COD）	72.2% (H24)	100% (H32)
・河川（BOD）	95.2% (H24)	100% (H32)
・湖沼（COD）	81.8% (H24)	100% (H32)
□ダイオキシン類	100% (H24)	100% (H32)
□その他、地下水、騒音、土壌汚染等の環境基準の向上 〔調査項目〕 航空機騒音、新幹線騒音、道路騒音、地下水汚染、土壌汚染		
○ダイオキシン類排出量【再掲】	99%削減 (H9 比)	99%削減 (H32)
★PM2.5に係るきめ細かな情報提供や広域的な汚染状況の把握		
★環境放射線対策については、国の示す実施計画に沿って、環境試料の採取、測定・調査を実施		
5 環境関連産業の育成・集積		
★水素ステーションの設置	0 か所 (H24)	4 か所 (H32)
★水素利用量	0 万Nm ³ (H24)	27 万Nm ³ (H32)
★EV等次世代自動車（当該年度の新車販売台数に占める割合）【再掲】	15% (H24)	50% (H32)
★EV用急速充電器【再掲】	23 基 (H24)	90 基 (H28)
6 環境に関する人づくり・地域づくりの推進		
○環境学習指導者バンク登録者数	168 人 (H24)	200 人 (H32)
○環境学習参加者数	57,273 人 (H24)	66,000 人 (H32)
○自然環境学習参加者数	11,467 人 (H24)	13,000 人 (H32)
○こどもエコクラブ数（累計）	1,042 団体 (H24)	1,200 団体 (H32)
○ISO14001取得等団体数	324 団体 (H24)	400 団体 (H32)
○農山漁村交流体験人口	358 万人 (H24)	400 万人 (H28)
○中国・韓国との技術研修員等の相互交流数（累計）	191 人 (H24)	280 人 (H32)
★県内で開催される大規模イベントに合わせ、「県民一斉環境美化活動促進期間」を設定（大規模イベントが開催されない場合は、当該年度の重点取組を定め、その取組内容に即した期間を設定）【再掲】		

前計画に掲げる目標の実施状況

前計画に基づき、様々な施策・事業を総合的に推進してきたところであり、目標についても、下表のとおり、一部の項目において、国や市町等との連携のもと、今後一層の推進を要するものはあるものの、概ね、達成しております。

(現況欄の「◎」は、目標が達成されたもの)

環境指標	目標値(H24末)	現況
1 ゼロエミッションの推進による循環型社会づくり		
山口県循環型社会形成推進基本計画の策定		◎ 策定済み(H23)
ごみゼロ県民運動推進のためのマニュアル策定		◎ 策定済み(H16)
廃棄物に建材への利活用など新たなゼロエミッションプロジェクトの事業化推進		◎ 古紙等を活用した新建材の事業化(H16)
1人1日当たりの家庭排出ごみ排出量	700g/日	◎ 557g/日(H23)
一般廃棄物のリサイクル率	40%	27.9%(H23)
一般廃棄物の最終処分量	64千t/年	◎ 51千t/年(H23)
産業廃棄物の総排出量	9,859千t/年	◎ 8,179千t/年(H20)
産業廃棄物のリサイクル率	51%	◎ 55.0%(H20)
産業廃棄物の最終処分量	632千t/年	◎ 463千t/年(H20)
公共関与(県)による産業廃棄物広域処分場の整備(埋立容量)	119万m ³	74万m ³ (H24)
2 エネルギーの効率的な利用によるエコライフ型社会づくり		
太陽光発電の導入	56,000kW	◎ ・住宅用:113,048kW(H24) ・メーカー:11,000kW(H24)
風力発電の導入	7,000kW	◎ 113,450Kw(H24)
燃料電池の導入	96,000kW	203~270kW(H23)
「環境対応型コンビナート特区」における電力・熱の相互融通の促進		◎ 電力の特定供給事業に係る規制緩和の全国展開(H17)

環境指標	目標値(H24 末)	現況
ソーダ工場等から副生する水素ガスを燃料として有効活用を図る水素フロンティア山口の推進	◎ 水素フロンティア山口実証事業の実施 (H16～H21) ⇒事業終了	
間伐材等の未利用資源を利用する森林バイオマスエネルギーの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・ペレット燃料製造工場(H17. 12 稼働) ・ガス化発電(H17. 12 稼働) ・石炭火力発電所の混燃(H17. 12 稼働) ⇒実験終了	
・森林バイオマスエネルギー利用量(間伐材重量)	15,000 t 以上	◎ 20,410 t (H23)
3 良好な環境づくり		
公害防止条例を見直し、良好な環境づくりをめざした条例の整備	—	(検討中)
大気、水質等の環境基準の達成・維持		
○大気関係		
・二酸化硫黄	100%	◎ 100% (H24)
・二酸化窒素	100%	◎ 100% (H24)
・一酸化炭素	100%	◎ 100% (H24)
○水質関係		
・海域(COD)	100%	72.2% (H24)
・河川(BOD)	100%	95.2% (H24)
・湖沼(COD)	100%	81.8% (H24)
○ダイオキシン類	100%	◎ 100% (H24)
○その他、地下水、騒音、土壌汚染等の環境基準の向上	◎ [調査項目] 航空機騒音、新幹線騒音、道路騒音、地下水汚染、土壌汚染	
ダイオキシン類排出量	95%削減(H9 比)	◎ 99%削減(H24)
低公害車導入の促進	・県公用車の更新等に当たっては、原則として低公害車を導入	◎ 1,190 台(H24)
生活排水処理率	86%	82.0% (H23)
水道普及率	95%	93.0% (H23)

環境指標	目標値(H24末)	現況
4 森・川・海を育むふるさとの流域づくり		
榎野川をモデルとした特色ある流域づくりの推進と他流域における取組の促進	◎	・干潟再生拡大実証試験等の実施 ・地域連携モデル事業の実施
流域が一体となった森林の管理・保全の推進 ・水源の森の整備	17,000ha	◎ 22,054ha (H24)
環境に配慮した公共事業の実施 ・河川整備における多自然型川づくりの割合	90%	◎ 90% (H24)
5 自然環境の保全と自然とのふれあいによる自然共生型地域づくり		
希少野生動植物保護のための条例等の制定	◎	・希少野生動植物種保護条例の制定(H16) ・〃 条例施行規則の制定(H17.11) ・〃 基本方針の策定(H17.10)
景観ビジョンの策定及び景観条例の制定	◎	・景観ビジョンの策定(H17.3) ・景観条例の制定(H18.3)
1人当たりの都市公園の面積	13.4 m ² /人	◎ 14.0 m ² /人 (H24)
電線類の地中化延長	96km	◎ 109.5km (H24)
街路樹等の道路緑地延長	260km	◎ 282.5km (H24)
里山人人数	1,220人	◎ 1,277人 (H24)
農山漁村交流体験人口	280万人	◎ 358万人 (H24)
エコファーマー認定者数	2,550人	◎ 2,613人 (H24)
6 環境学習の推進とパートナーシップによる環境にやさしい地域づくり		
県環境学習基本方針の改定及び環境教育推進計画(教育部門)の策定	◎	・県環境学習基本方針改定(H17.3) ・環境教育推進計画策定(H23.3)
環境学習全県ネットワークの構築	◎	ホームページ「環境学習のひろば」による情報提供、環境学習推進協議会の開催等
環境学習指導者バンク登録者数	250人	168人 (H24)
環境学習参加者数	55,000人	◎ 57,273人 (H24)
自然環境学習参加者数	9,000人	◎ 11,467人 (H24)
こどもエコクラブ数(累計)	1,000団体	◎ 1,042団体 (H24)
I S O 1 4 0 0 1 取得等団体数	340団体	324団体 (H24)

環境指標	目標値(H24末)	現況
7 地球環境の保全と国際協力に貢献する地域づくり		
温室効果ガス排出量について、H2レベルの2%削減をめざし、国の政策とも連動しながら、温室効果ガス削減対策及び温室効果ガス吸収源対策を推進（※県内消費量ベース）	基準年(H2)比△2%体制をつくる	◎ △2.9%(H23)
県庁の率先した取組として、二酸化炭素排出量について、H2レベルの17%削減	△17%(H2比)	◎ △30.9%(H24)
「地球となかよし県民運動」の一層の推進県民運動の認定数（累計）	3,500人	◎ 7,023人(H24)
適切な森林整備 ・スギ・ヒノキ人工林の森林整備	58,000ha	50,582ha(H16～24)
特定フロンを100%回収	—	◎ 100%(H24)
中国・韓国との技術研修員等の相互交流（累計）	200人	191人(H24)
国際交流・協力による地球温暖化のための森林づくりの推進	—	◎ 中国山東省に植林259ha(H16～H19)

環境の現況に関する各種データ

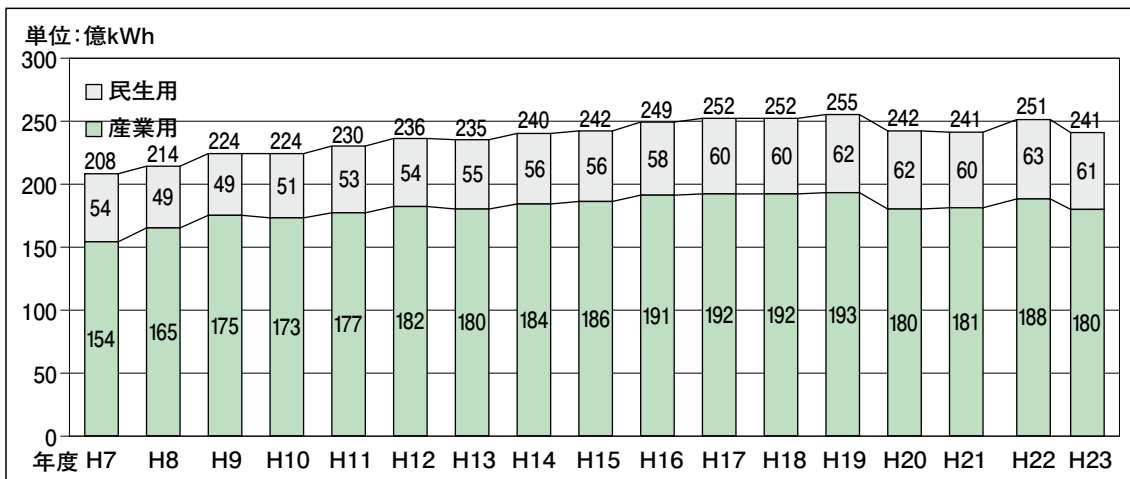
- | | |
|--|---------------|
| (1) 県施設における再生可能エネルギーの導入状況 | |
| (2) 部門別需要電力量の推移 | 本文分 (p.10) 再掲 |
| (3) 温室効果ガス排出量の推移 | 本文分 (p.11) 再掲 |
| (4) フロン類回収状況の推移 | |
| (5) 樹種別森林面積 (民有林) (平成 24 年度) | |
| (6) 民有林治山事業の推移 | |
| (7) 間伐実績の推移 | |
| (8) 1人1日当たりのごみ (一般廃棄物) 総排出量の推移 | 本文分 (p.19) 再掲 |
| (9) ごみ (一般廃棄物) のリサイクル率の推移 | 本文分 (p.19) 再掲 |
| (10) 一般廃棄物処理の状況 (平成 23 年度) | |
| (11) 一般廃棄物最終処分場の整備状況 | |
| (12) 産業廃棄物の排出量、再生利用量及び再生利用率の推移 | 本文分 (p.19) 再掲 |
| (13) 産業廃棄物の種類別・業種別発生量 (平成 20 年度) | |
| (14) 産業廃棄物の処理状況 (平成 20 年度) | |
| (15) 産業廃棄物の不法投棄指導件数 | |
| (16) 県内自然公園 | |
| (17) 緑地環境保全地域等の指定状況 | |
| (18) 「レッドデータブックやまぐち」選定種一覧 | |
| (19) 県内の絶滅のおそれのある野生動植物の種数 | |
| (20) 指定希少野生動植物種の指定状況 | |
| (21) 県内の特定外来生物の生息・生育状況 | |
| (22) 鳥獣保護区等の指定状況 | |
| (23) 都市公園の整備状況 | |
| (24) 県内の国及び県指定等文化財件数一覧 | |
| (25) 主な大気汚染物質の経年変化 (年平均) | 本文分 (p.37) 再掲 |
| (26) 大気汚染に係る環境基準達成状況 (選定局別一覧) (平成 24 年度) | |
| (27) 騒音に係る環境基準達成状況 (平成 24 年度) | |
| (28) 自動車交通騒音の測定地点における環境達成基準達成状況 (平成 24 年度) | |
| (29) 水環境の環境基準達成率の経年変化 | 本文分 (p.37) 再掲 |
| (30) BOD (河川)、COD (海域、湖沼)に係る環境基準達成状況 (一覧) (平成 24 年度) | |
| (31) 浄化槽の設置基数の推移 | |
| (32) 化学物質届出排出量・移動量 (上位 10 物質) (平成 23 年度) | |
| (33) 化学物質届出排出量・移動量 (業種別) (平成 23 年度) | |
| (34) 公害の種類別苦情件数及び構成比の推移 | |
| (35) 環境学習プログラム一覧 | |
| (36) 環境学習指導者バンク制度登録者数 (平成 24 年度) | |
| (37) 県内の ISO 14000 1 及びエコアクション 2.1 認証取得件数の推移 | |

(1) 県有施設における主な再生可能エネルギーの導入状況

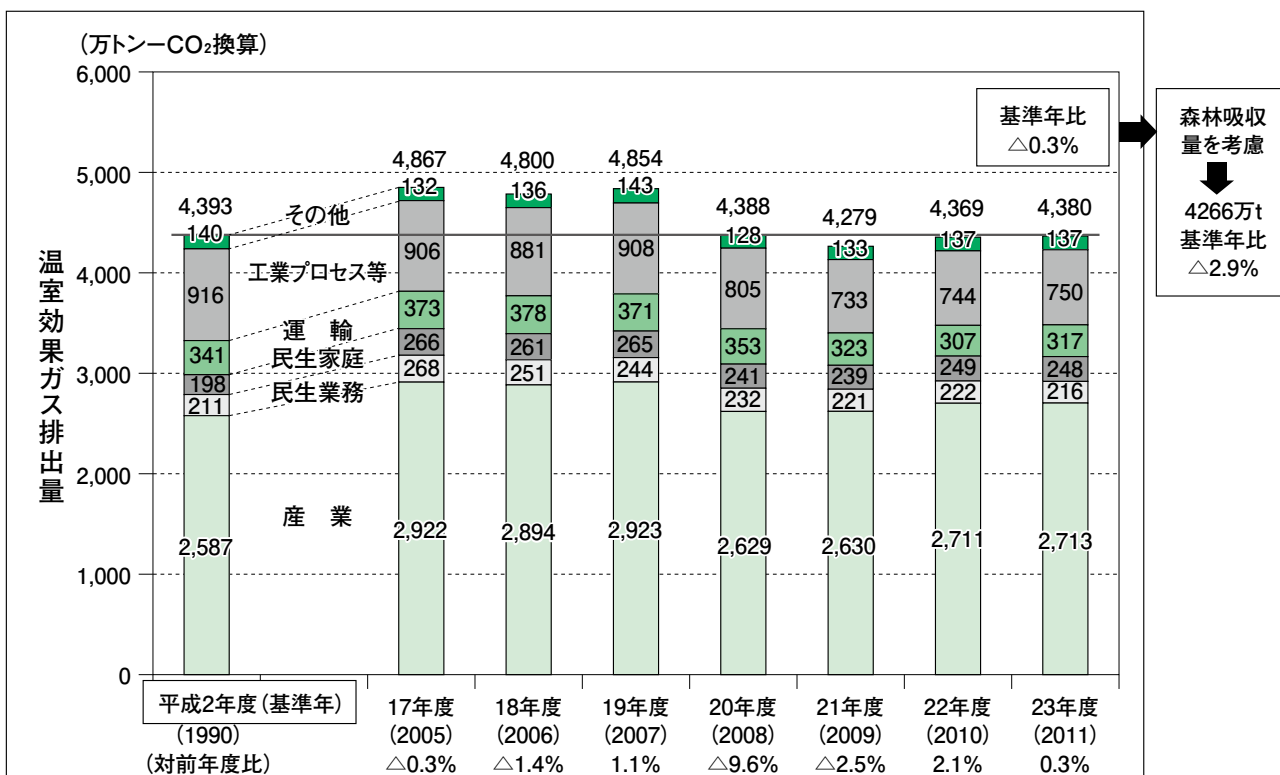
設備名	導入施設名	出力・台数
太陽光発電	県庁舎、周南総合庁舎、セミナーパークなど74箇所	約740kW
風力発電	山口きらら博記念公園など4箇所	約6kW
中小力発電	新阿武川発電所など12箇所	52,140kW
バイオマス熱利用		
ペレットボイラー	県林業指導センターなど6箇所	7基
ペレットストーブ	農林総合技術センターなど3箇所	3台
太陽熱利用	県庁舎など2箇所	—
地熱利用	県立豊浦高校	—
EV等次世代自動車		53台
電気自動車(EV)	県庁舎など10施設	10台
ハイブリッド自動車	県庁舎など7施設	40台
燃料電池自動車	宇部空港管理事務所	1台
天然ガス車	県庁舎	2台

(平成24年度末現在)

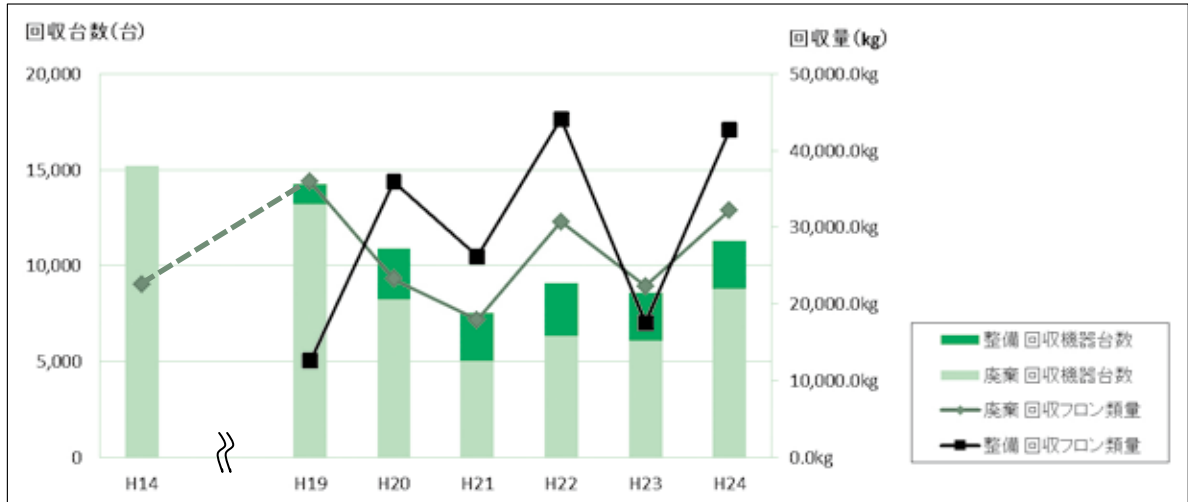
(2) 部門別需要電力量の推移



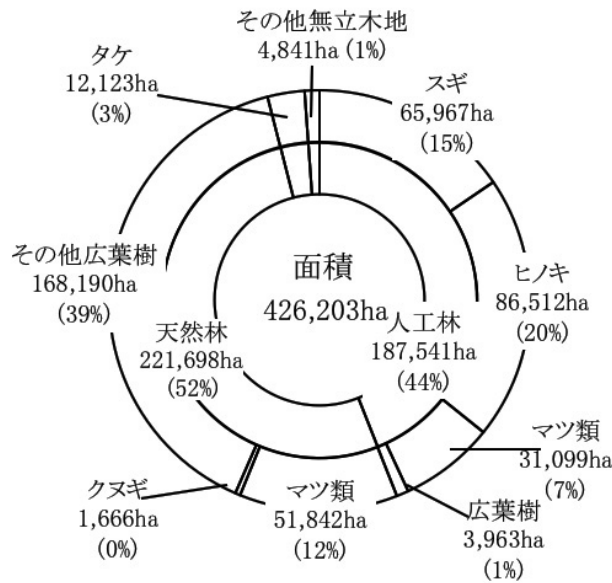
(3) 温室効果ガス排出量の推移



(4) フロン類回収状況の推移



(5) 樹種別森林面積 (民有林)
(平成 24 年度)



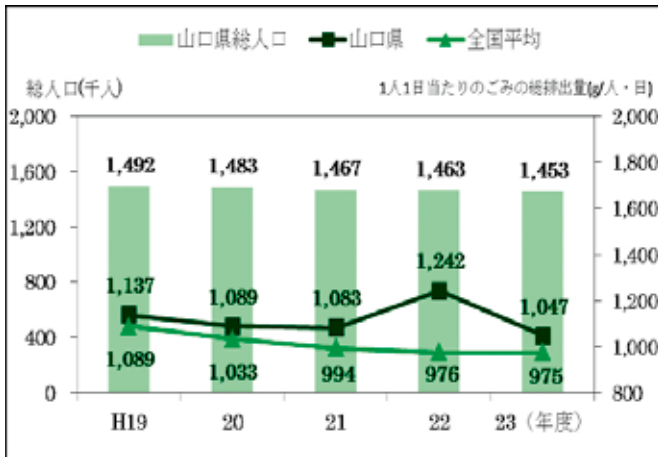
(6) 民有林治山事業の推移



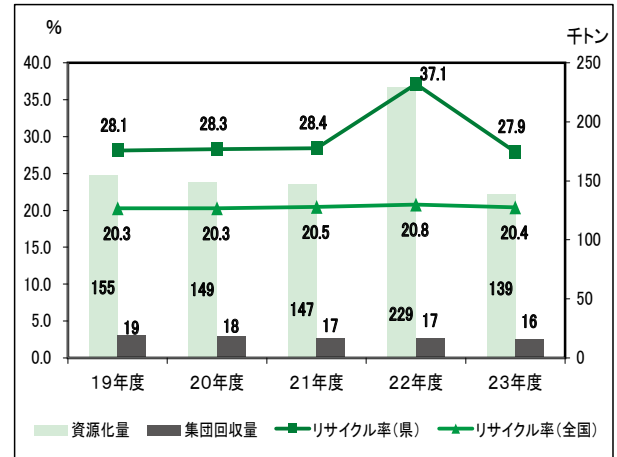
(7) 間伐実績の推移



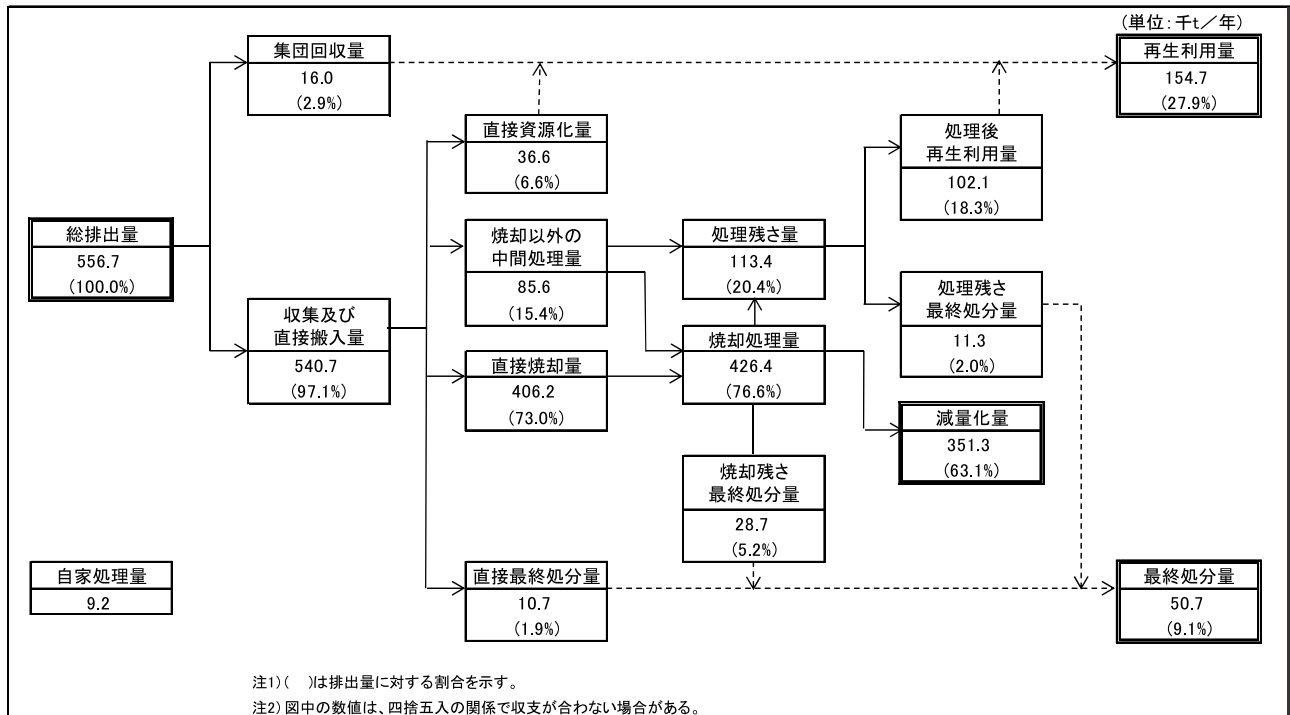
(8) 1人1日当たりのごみ（一般廃棄物）
総排出量の推移



(9) ごみ（一般廃棄物）のリサイクル率
の推移



(10) 一般廃棄物処理の状況（平成 23 年度）

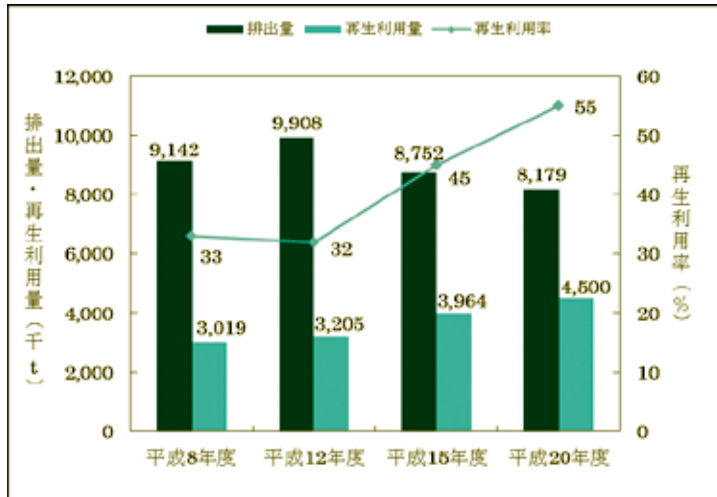


(11) 一般廃棄物最終処分場の整備状況

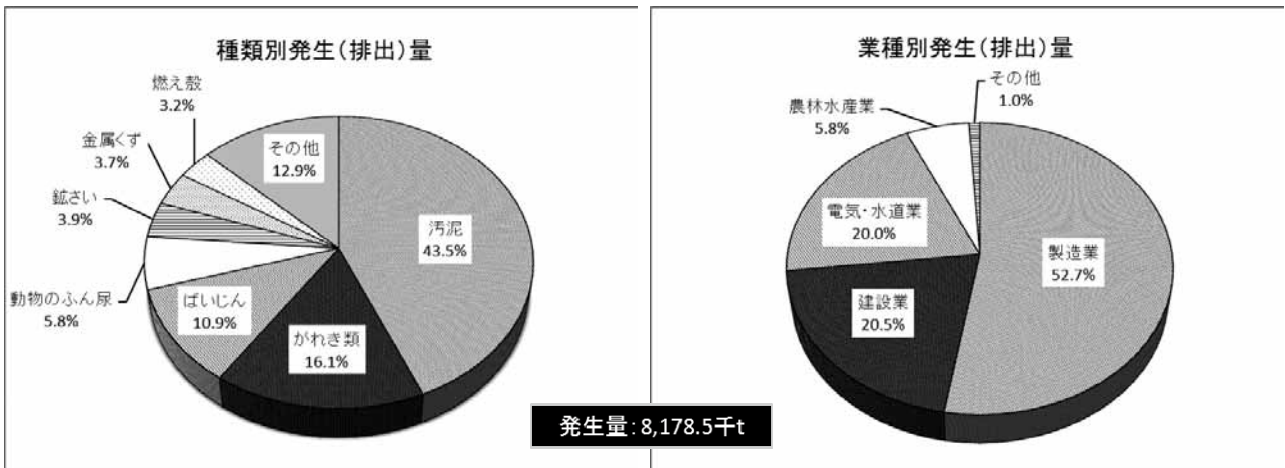
年度	処分場数	面積 (千㎡)	全体容量 (千m3)	残余容量 (千m3)	備考
19	41	550	4,202	1,091	
20	41	626	4,210	1,150	
21	41	626	4,210	1,057	
22	40	616	4,184	1,180	
23	38	608	4,162	1,128	

残余容量は約22年分

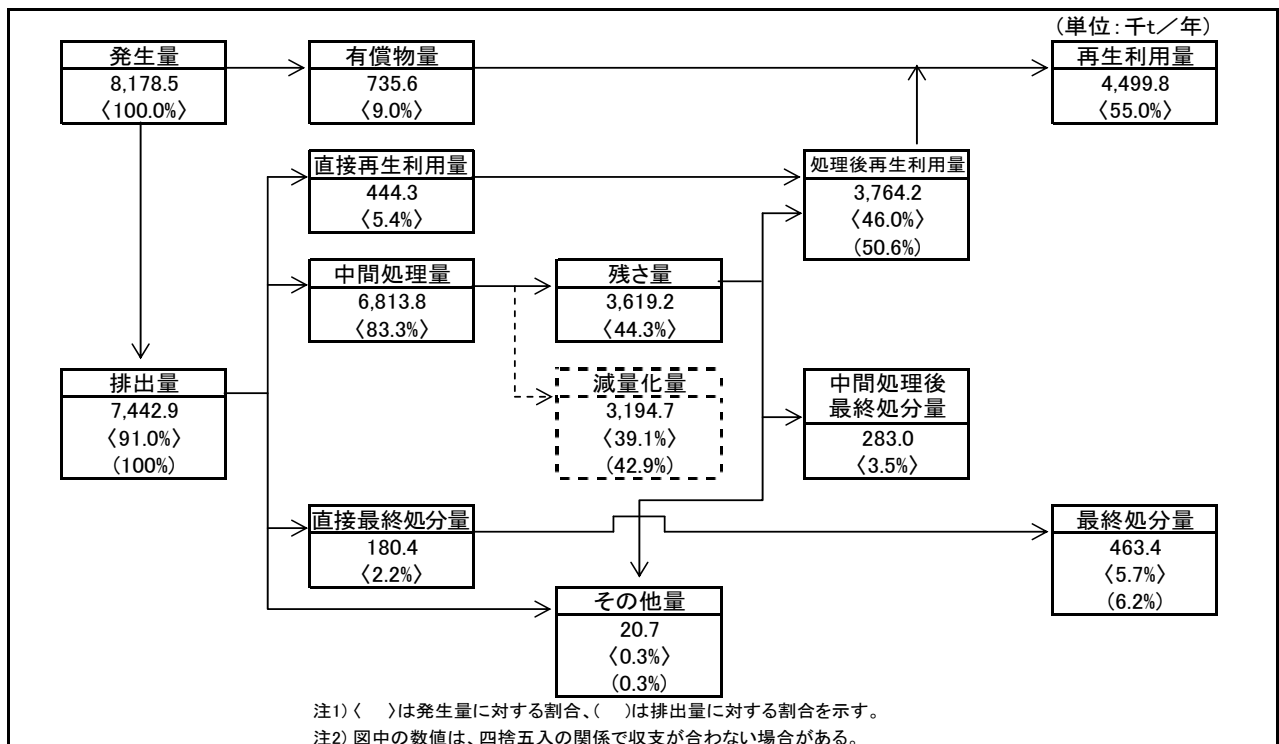
(12) 産業廃棄物の排出量、再生利用量及び再生利用率の推移



(13) 産業廃棄物の種類別・業種別発生量 (平成 20 年度)



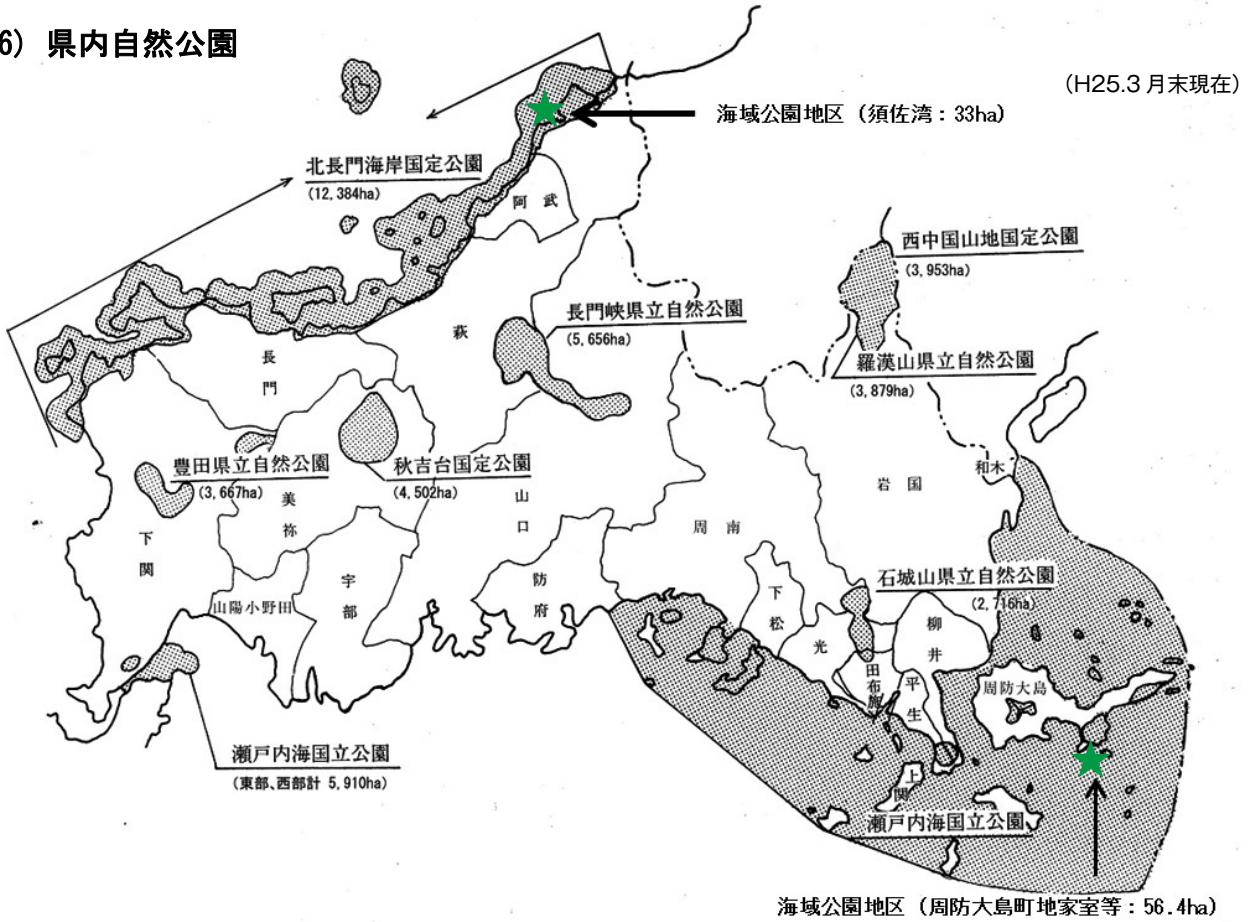
(14) 産業廃棄物の処理状況 (平成 20 年度)



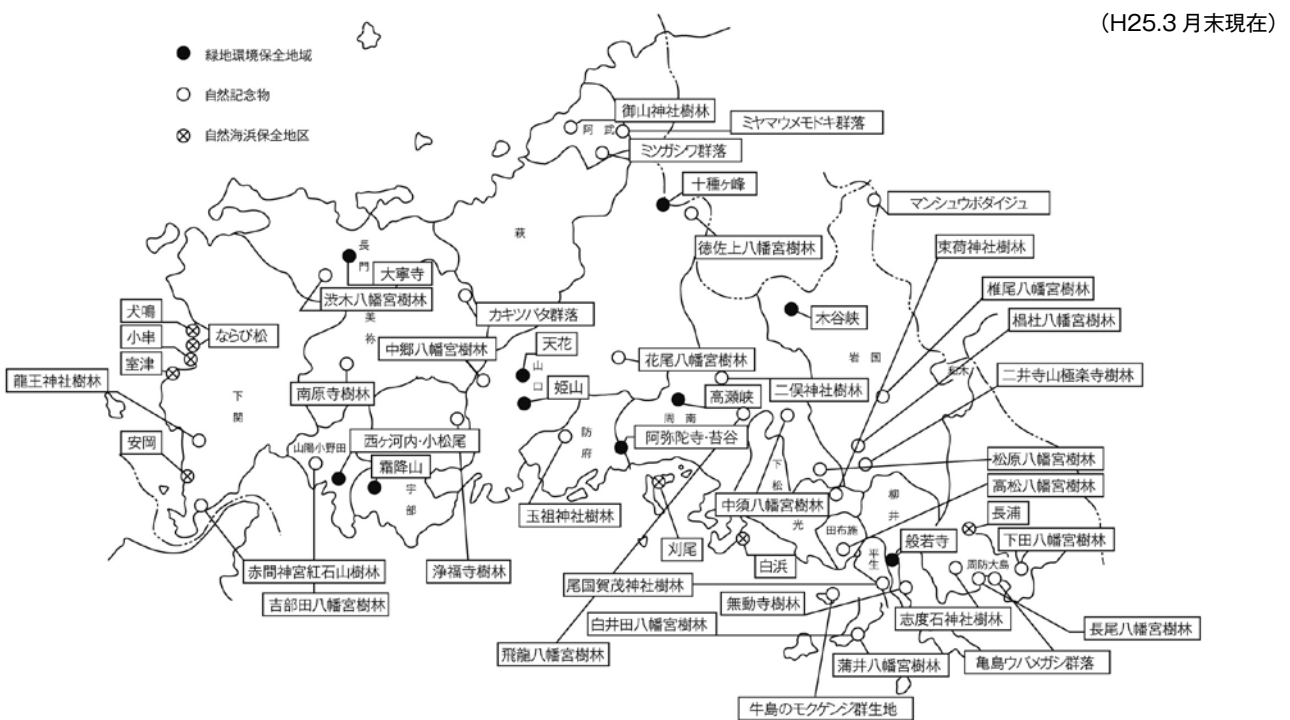
(15) 産業廃棄物の不法投棄指導件数

年度	H20	H21	H22	H23	H24
件数	432	545	339	345	371

(16) 県内自然公園



(17) 緑地環境保全地域等の指定状況



(18) 「レッドデータブックやまぐち」選定種一覧

分類	絶滅種 (EX)	絶滅危惧 I A類 (CR)	絶滅危惧 I B類 (EN)	絶滅危惧 I 類 (CR+EN)	絶滅危惧 II 類 (VU)	準絶滅危 惧種 (NT)	情報不足 種 (DD)	地域個体 群 (LP)	計
哺乳類		2	1		3	12	4	1	23
鳥類	2	11	4		22	63			102
爬虫類						4			4
両生類		1				5	2		8
淡水産魚類		2	10		4		4		20
昆虫類		19	14		48	57	74		212
クモ類						5			5
甲殻類		1				1	6		8
陸・淡水産 貝類	1	7	7		12	8	5		40
維管束植物		273	47		224	82			626
コケ植物				28					28
計 (構成比)	3 (0.3%)	316 (29.4%)	83 (7.7%)	28 (2.6%)	313 (29.1%)	237 (22.0%)	95 (8.8%)	1 (0.1%)	1,076 (100%)

- 注) 1 絶滅種: 県内では既に絶滅したと考えられる種
 2 絶滅危惧 I A類: 県内でごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの
 3 絶滅危惧 I B類: I A類ほどではないが、県内で近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
 4 絶滅危惧 I 類: 県内で絶滅の危機に瀕している種
 5 絶滅危惧 II 類: 県内で絶滅の危機が増大している種
 6 準絶滅危惧種: 県内で存続基盤が脆弱な種
 7 情報不足種: 県内で評価するだけの情報が不足している種
 8 地域個体群: 県内で地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの

(19) 県内の絶滅のおそれのある野生動植物の種数

分類		県産種 (A)	絶滅危惧種 (B)	(B) / (A) (%)
動物	哺乳類	50	6	12
	鳥類	374	37	9.9
	爬虫類・両生類	32	1	3.1
	淡水産魚類	125	16	12.8
	昆虫類	6,527	81	1.2
	クモ類	272	0	0
	甲殻類	45	1	2.2
	陸・淡水産貝類	160	26	16.3
小計		7,585	168	2.2
植物	維管束植物	2,717	544	20
	コケ植物	102	28	27.5
小計		2,819	572	20.3
計		10,404	740	7.1

- ※1 県産種は、山口県野生生物目録の県内に生息・生育する野生動植物種数
 ※2 絶滅危惧種は、レッドデータブックやまぐちの絶滅危惧 I・II 類掲載種数

(20) 指定希少野生動植物種の指定状況

(H25.3.31現在)

種名(科名)	県内生育地	山口県カテゴリー
キビヒトリシズカ (センリョウ科)	周防大島町、周南市、下関市	絶滅危惧 I A類
ホソバナコバイモ (ユリ科)	岩国市	絶滅危惧 I A類

(21) 県内の特定外来生物の生息・生育状況

(H25.3.31現在)

分類	県内に生息・生育情報がある種	その他	計
哺乳類	アライグマ、ヌートリア	ジャワマングース等	21
鳥類	ガビチョウ、ソウシチョウ	カオジロガビチョウ等	4
爬虫類	—	カミツキガメ等	16
両生類	ウシガエル	オオヒキガエル等	11
魚類	オオクチバス、ブルーギル、カダヤシ	コクチバス等	13
昆虫類	アルゼンチンアリ	オオマルハナバチ等	8
無脊椎動物等	クロゴケグモ、セアカゴケグモ、ハイイロゴケグモ	モズクガニ等	20
植物	オオキンケイギク、オオフサモ、アズラ・クリスタータ、オオカワヂシャ、ブラジルチドメグサ	ボタンウキクサ等	12
合計	17	88	105

※1 「その他」の欄は、県内に生息・生育情報がない種

※2 「計」の欄は、環境省が、外来生物法に基づき特定外来生物に指定している種数

(22) 鳥獣保護区等の指定状況

(H25.3.31現在)

区域	箇所数	面積(ha)
鳥獣保護区	81	52,642
特別保護地区	33	1,705
休猟区	24	34,165
特定猟具使用禁止区域(銃器)	62	79,779

(23) 都市公園の整備状況

区分	年度	H19	H20	H21	H22	H23	H24
	開設面積 A (ha) (山口県)		1,744	1,774	1,784	1,796	1,842
都市計画区区域内人口 B (千人) (山口県)		1,340	1,338	1,328	1,324	1,327	1,319
1人当たり面積整備率 A/B (m ² /人) (山口県)		13.0	13.3	13.4	13.6	13.9	14.0
1人当たり面積整備率 A/B (m ² /人) (全国平均)		(9.4)	(9.6)	(9.7)	(9.8)	(9.9)	(-)

注) 1 ()内は、全国平均である。

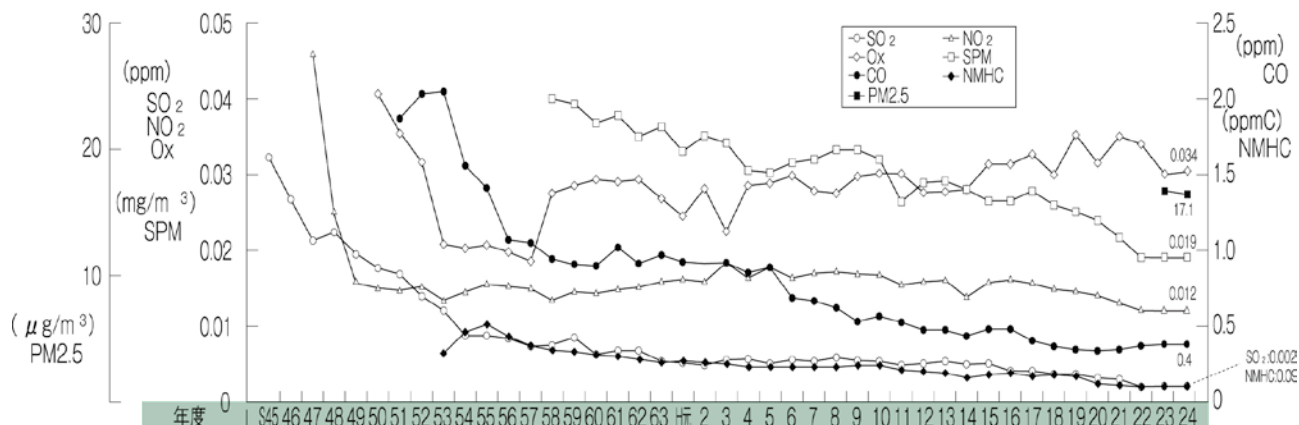
2 都市公園は、平成24年度までに13市及び4町(周防大島、和木、田布施、平生)で開設されている。

(24) 県内の国及び県指定文化財件数一覧

文化財	国 指 定			県 指 定			計
	指定	種別	件数	指定	種別	件数	
有形文化財	国宝	建造物	3	有形文化財			3
		絵画	1				1
		工芸品	3				3
		書跡	2				2
	重要文化財	建造物	35		建造物	34	69
		絵画	14		絵画	28	42
		彫刻	19		彫刻	62	81
		工芸品	27		工芸品	29	56
		書跡	14		書跡	8	22
		典籍	0		典籍	10	10
	古文書	6	古文書	8	14		
	考古資料	4	考古資料	24	28		
	歴史資料	7	歴史資料	15	22		
無形文化財	重要無形文化財	芸能	0	無形文化財	芸能	1	1
	重要無形文化財	工芸	0		工芸	3	3
民俗文化財	重要民俗文化財	有形	11	民俗文化財	有形	8	19
	重要民俗文化財	無形	5		無形	34	39
記念物		特別天然記念物	4	記念物			4
		史跡	41		史跡	30	71
		名勝	10		名勝	5	15
		天然記念物	39		天然記念物	53	92
計			245	計		352	597
記録作成等の措置を講ずべき無形の文化財として選択されたもの			3				3
記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財として選択されたもの			10				10
重要伝統的建造物群保存地区(選定)			5				5

(平成 25 年 5 月現在)

(25) 主な大気汚染物質の経年変化 (年平均)



(26) 大気汚染に係る環境基準達成状況（測定局別一覧）（平成24年度）

区分	測定局				二酸化硫黄	二酸化窒素	一酸化炭素	浮遊粒子状物質	光化学オキシダント	非メタン炭化水素	微小粒子状物質	設置主体
	地域区分	No	名称	所在地								
一般環境大気測定局	岩国・和木	1	和木コミュニティセンター	和木町	○	○		○	×		×	山口県
		2	麻里布小学校	岩国市	○	○	○	○	×	×	×	
		3	岩国小学校	〃	○			○				
		4	愛宕小学校	〃	○	○		○	×		×	
	柳井	5	柳井市役所	柳井市	○	○		○	×		×	
	周南	6	光高校	光市	○	○		△	×		○	
		7	浅江中学校	〃	○	○		○				
		8	豊井小学校	下松市	○	○		△				
		9	下松市役所	〃	○	○		○	×	○	×	
		10	櫛浜支所	周南市	△	○		○				
		11	徳山商工高校	〃	○	○		○				
		12	周南市役所	〃	○	○		○	×	×	×	
		13	浦山送水場	〃	△	○		△				
	防府	14	宮の前児童公園	〃	○	○		○	×	×		
		15	国府中学校	防府市	○			○				
		16	防府市役所	〃	○	○		○	×		×	
		17	華浦小学校	〃	○	○		○				
	山口	18	中関小学校	〃	○			○				
		19	環境保健センター	山口市	○	○		○	×		×	
	宇部・小野田	20	岬児童公園	宇部市	○	○		△				
		21	宇部総合庁舎	〃	○	○	○	○	×	○	×	
		22	原小学校	〃	○			△				
		23	厚南市民センター	〃	○	○		○	×		×	
		24	竜王中学校	山陽小野田市	○	○		△			×	
		25	須恵健康公園	〃	○	○		○	×		×	
	美祿	26	伊佐中学校	美祿市	○			○				
		27	美祿市役所	〃	○	○		△	×		×	
	長門	28	長門土木建築事務所	長門市					×		×	
	萩	29	萩健康福祉センター	萩市					×		×	
下関	30	小月局	下関市	○			○				下関市	
	31	長府局	〃	○	○	○	○		×			
	32	彦島局	〃	○	○		○	×	×	×		
	33	山の田局	〃	○	○		○	×		×		
	34	豊浦局	〃		○		○	×				
環境基準等達成局／全測定局数					29/31	26/26	3/3	25/32	0/19	2/8	1/17	
出自動 局ス車 測排	周南	35	辻交差点	周南市		○	○	○		×		山口県
	環境基準等達成局／全測定局数						1/1	1/1	1/1		0/1	

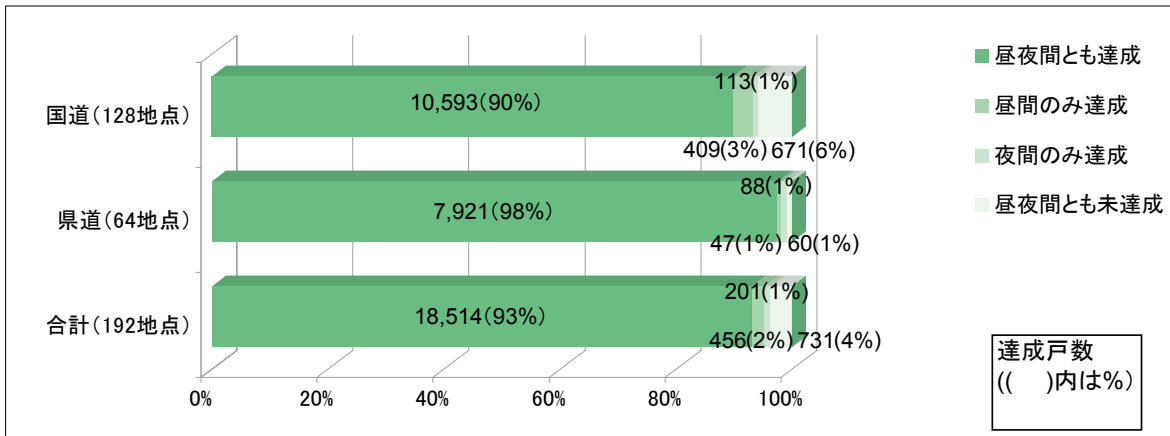
注1) ○：環境基準達成 △：環境基準の長期的評価達成 ×：環境基準超過
 注2) 非メタン炭化水素については、○：指針値達成 ×：指針値超過
 注3) 周南市役所の微小粒子状物質については、環境省が設置した機器により測定

(27) 騒音に係る環境基準達成状況（平成 24 年度）

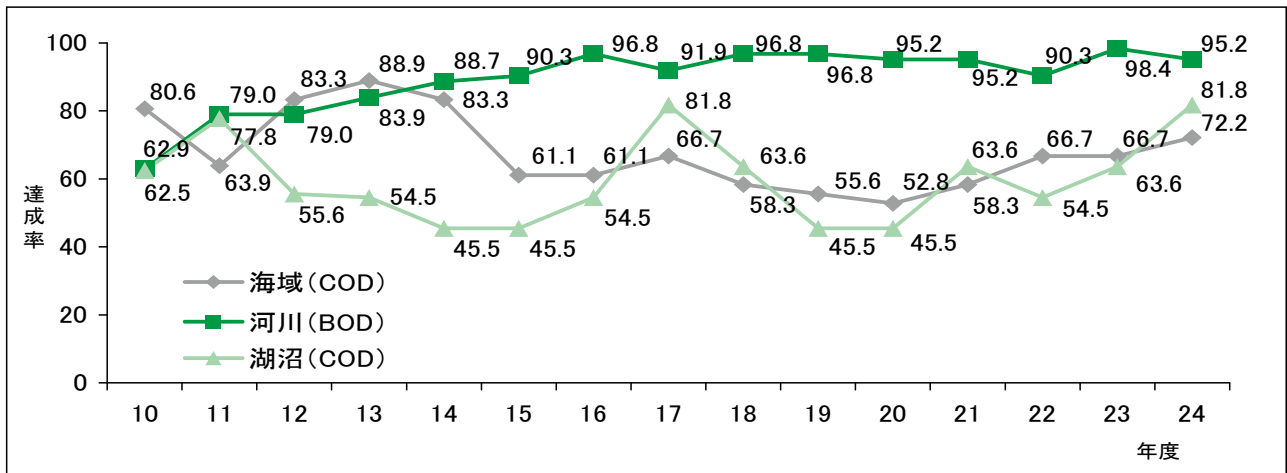
地域の類型	一般地域		
	A 及び B	C	計
測定地点数	43	19	62
適合地点数	35	19	54
適合率(%)	81.4	100	87.1

(注)
 一般地域：道路に面する地域以外の地域
 地域の類型
 A：専ら住民の用に供される地域
 B：主として住民の用に供される地域
 C：相当数の住民と併せて商業、工業の用に供される地域

(28) 自動車交通騒音の測定地点における環境基準達成状況（平成 24 年度）



(29) 水環境の環境基準達成率の経年変化

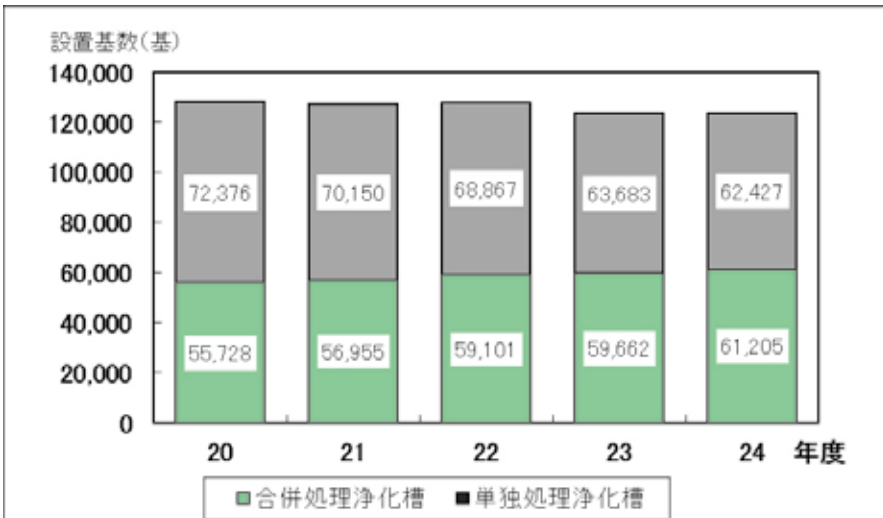


(30) BOD（河川）、COD（海域、湖沼）に係る環境基準達成状況（一覧）（平成 24 年度）

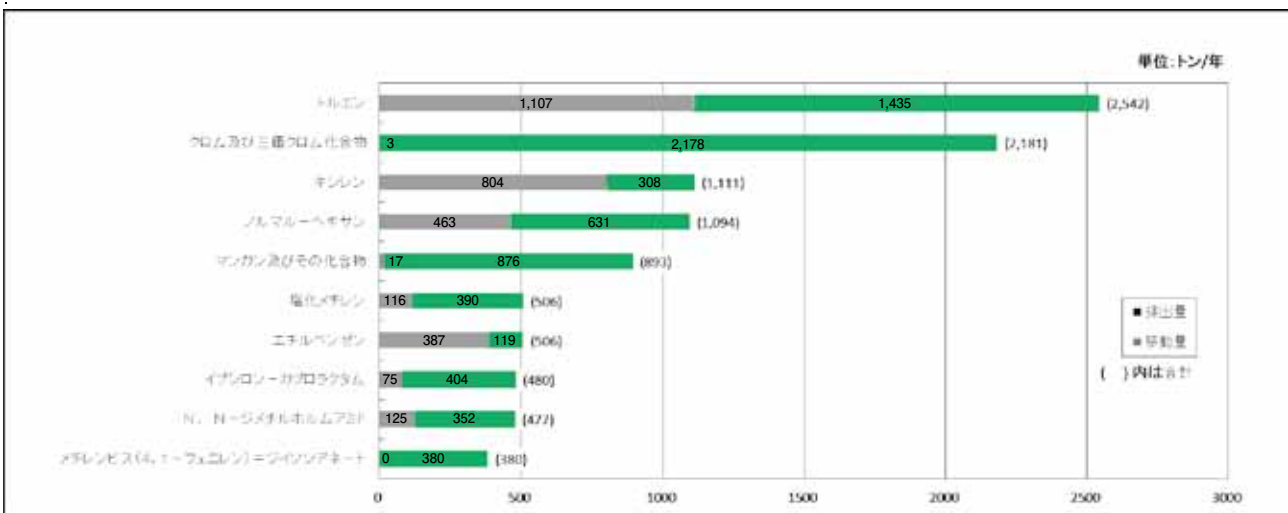
	達成	一部の類型を除き達成	未達成
海域	柳井・大島、平生・上関、豊浦・豊北地先、仙崎・深川湾、油谷湾、萩地先、阿武地先	広島湾西部、笠戸湾・光、徳山湾、三田尻湾・防府、中関・大海、響灘及び周防灘(宇部・小野田)	山口・秋穂、響灘及び周防灘(下関)
河川	錦川、由宇川、柳井川、田布施川、光井川、島田川、切戸川、平田川、富田川、夜市川、佐波川、樺野川、南若川、厚東川、厚狭川、有帆川、真締川、木屋川、友田川、綾羅木川、武久川、川棚川、深川川、掛淵川、粟野川、三隅川、阿武川、大井川、田万川	小瀬川、土穂石川	末武川
湖沼	菅野湖、山代湖、弥栄湖、菊川湖、米泉湖、高瀬湖、大原湖、豊田湖、阿武湖		常盤湖、小野湖

注) 1 環境基準達成とは、すべての環境基準点において、日間平均値の環境基準適合日数が総測定日数の75%以上である場合をいう。
 2 海域及び湖沼はCOD、河川はBODである。

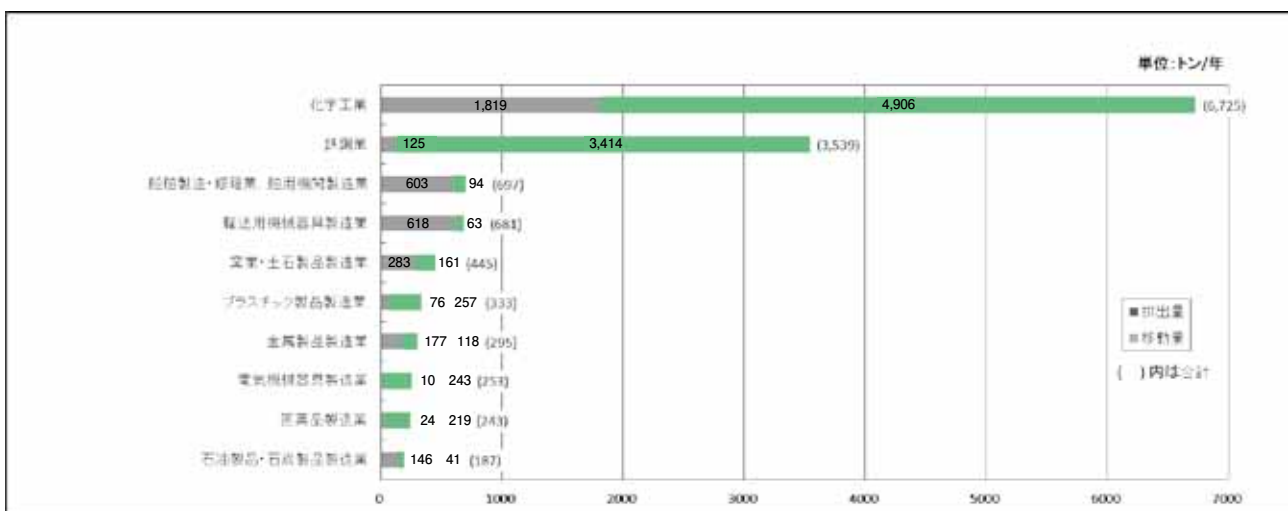
(31) 浄化槽の設置基数の推移



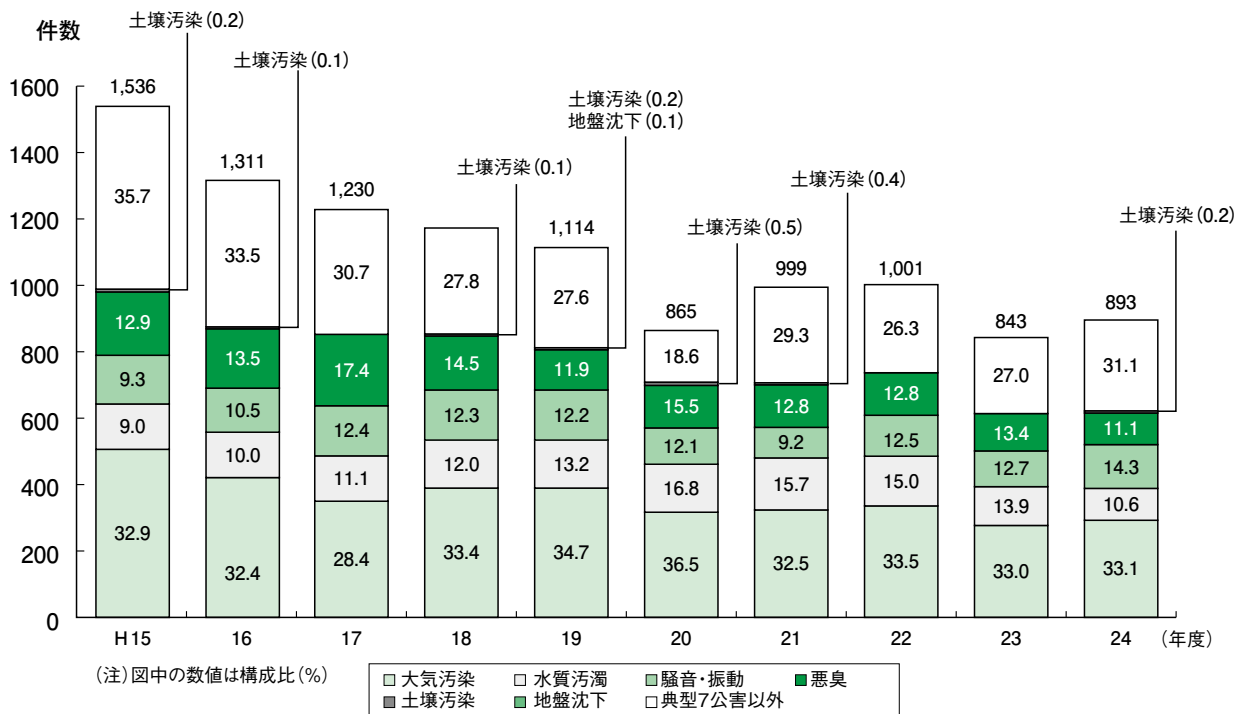
(32) 化学物質届出排出量・移動量（上位 10 物質）（平成 23 年度）



(33) 化学物質届出排出量・移動量（業種別）（平成 23 年度）



(34) 公害の種類別苦情件数及び構成比の推移



(35) 環境学習プログラム一覧

年度	プログラムのテーマ
10	・流域の水環境を考える ・酸性雨を考える ・ごみについて考える
11	・水辺にすむ生き物 ・暮らしとエネルギー ・快適な音環境
12	・家庭の排水 ・きれいな海 ・昔の知恵と人々のつながり
13	・グリーン購入を考える ・きれいな空気 ・土のはたらき
14	・まち並みウォッチング ・身近な森と親しむ ・まちや里の生き物とその生息環境
23	・やまぐちの美しい里山・海づくり！

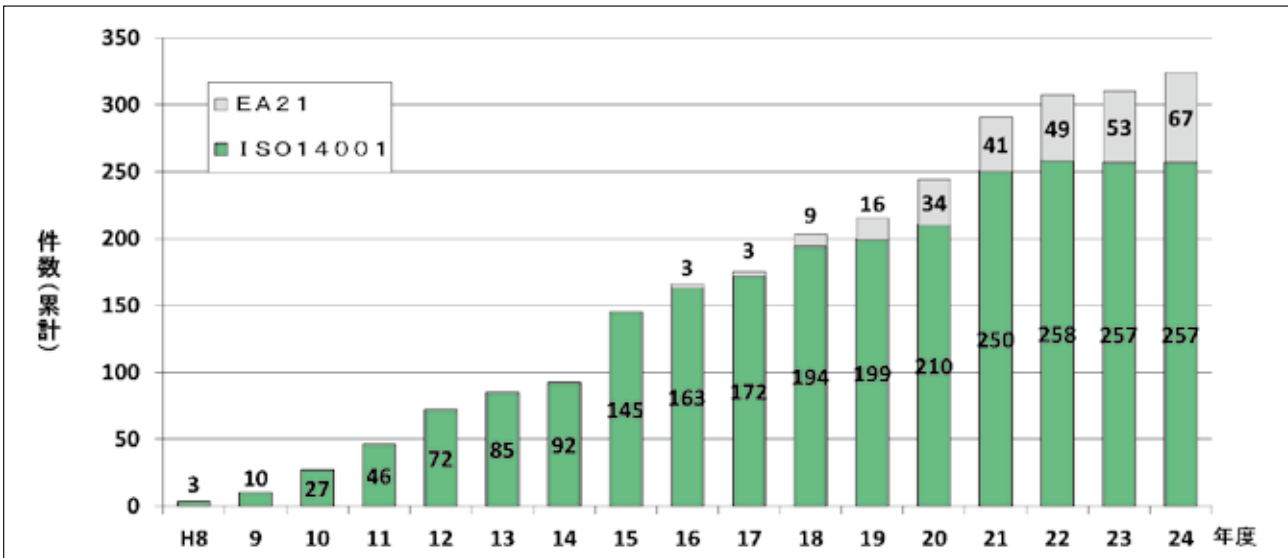
〇こども環境学習プログラム一覧

年度	プログラムのテーマ
12	・「山・里編」 ・「瀬戸内海編」
13	・「川・水編」 ・「日本海編」

(36) 環境学習指導者バンク制度登録者数（平成 24 年度）

指導者の区分	指導者数
環境アドバイザー	51
環境パートナー	85
子どもエコクラブアドバイザー	32

(37) 県内の ISO 14001 及びエコアクション 21 認証取得件数推移



環境に関する県民意識調査結果（概要）

I 調査概要

1 調査の目的

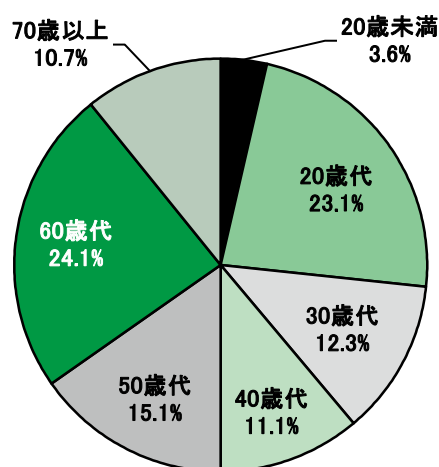
山口県環境基本条例第9条に基づき策定する「第3次山口県環境基本計画」の基礎資料とするため、一般県民を対象としたアンケート調査を行う。

2 調査設計

- (1) 調査地域 : 山口県全域
- (2) 調査対象 : 県民
- (3) 抽出元 : インターネット調査サービス登録会員
- (4) 有効回収数 : 503件
- (5) 調査方法 : Webによるアンケート調査（ホームページから直接回答する形式）
- (6) 調査期間 : 平成25年2月20日（水）～平成25年3月1日（金）

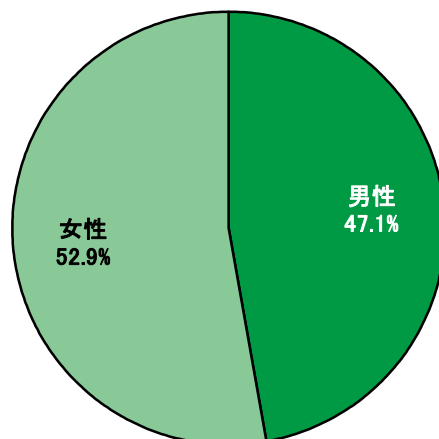
3 属性

(1) 年代



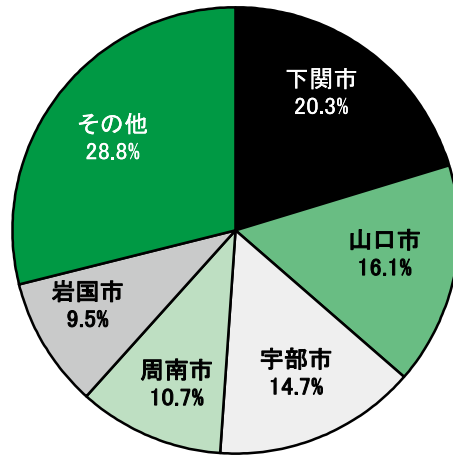
n=503

(2) 性別



n=503

(3) 居住地



n=503

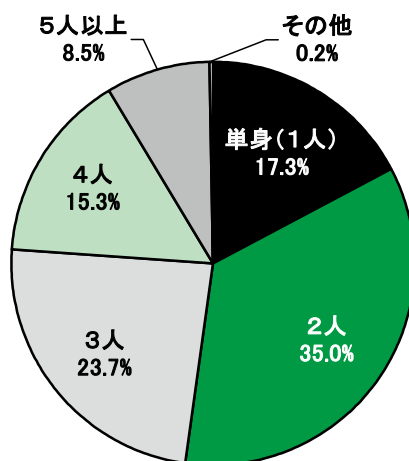
その他市町

市町名	件数	割合 (%)
防府市	36	7.2
光市	19	3.8
下松市	15	3.0
熊毛郡平生町	15	3.0
山陽小野田市	14	2.8
萩市	12	2.4
長門市	10	2.0
柳井市	10	2.0
美祢市	4	0.8
大島郡周防大島町	3	0.6
熊毛郡田布施町	3	0.6
玖珂郡和木町	2	0.4
熊毛郡上関町	1	0.2
阿武郡阿武町	-	-

※クロス集計での居住地の区分

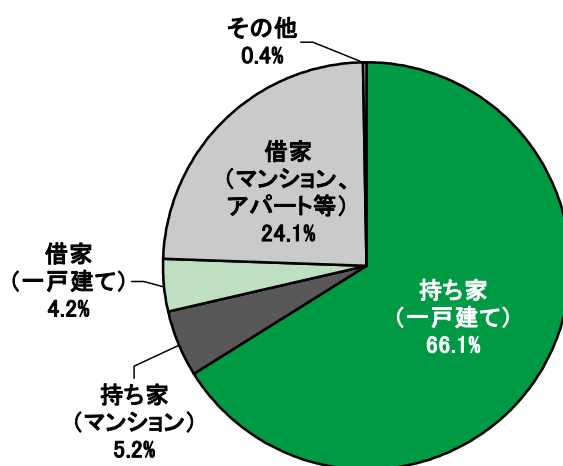
東部	中部	西部	北部
下松市	防府市	山陽小野田市	萩市
光市		美祢市	長門市
柳井市			阿武郡阿武町
大島郡周防大島町			
熊毛郡田布施町			
熊毛郡平生町			
熊毛郡上関町			
玖珂郡和木町			

(4) 世帯人員



n=503

(5) 住宅形態



n=503

4 報告書を見る際の注意点

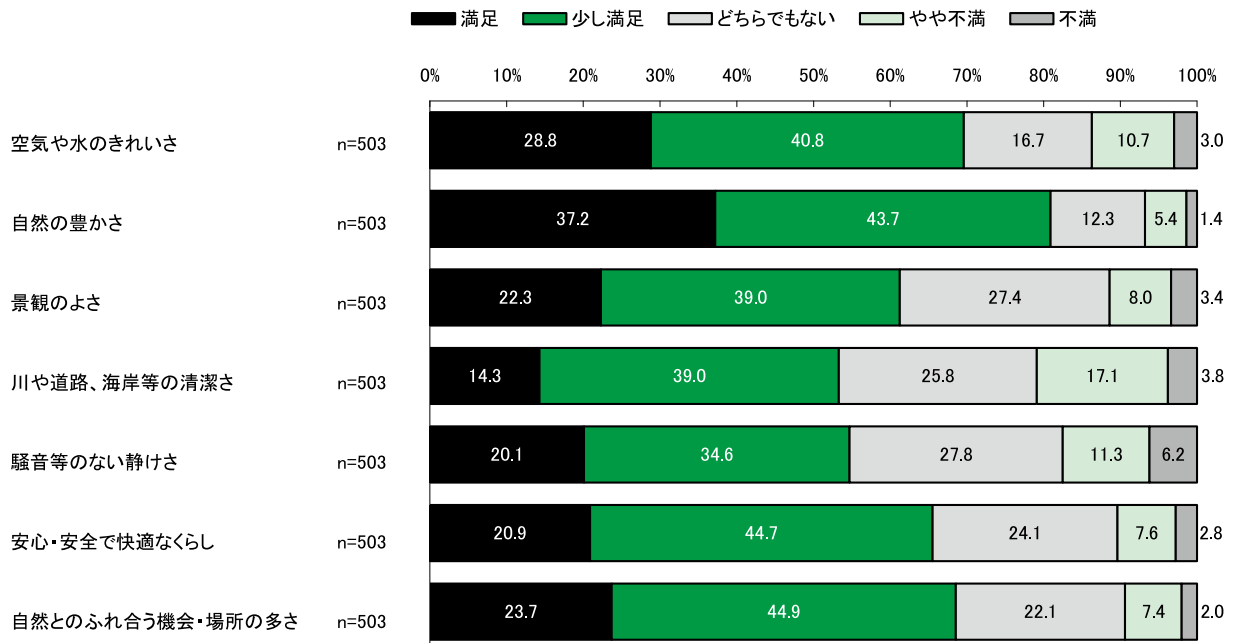
- (1) 比率はすべて百分率で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出した。そのために、百分率の合計が100%にならないことがある。
- (2) 質問文の中に、複数回答が可能な質問があるが、その場合、回答の合計は調査数を上回ることがある。
- (3) 図中の選択肢表記は、場合によっては語句を短縮・簡略化している場合がある。
- (4) クロス集計等での件数(母数)の少ない集計結果についても、参考までに記載している。
- (5) クロス集計については、特徴的な傾向がみられた集計のみ記載している。
- (6) クロス集計については、上段を実数、下段を百分率(%)としている。

Ⅲ 調査結果

1. 環境について

(1) 環境への意識

問1 あなたは身近な環境について、どう思っていますか。(〇はそれぞれ1つ)



環境への意識については、『満足（満足＋少し満足）』の回答の割合が高い項目は「自然の豊かさ（80.9%）」「空気や水のきれいさ（69.6%）」「自然とのふれ合う機会・場所の多さ（68.6%）」となっている。

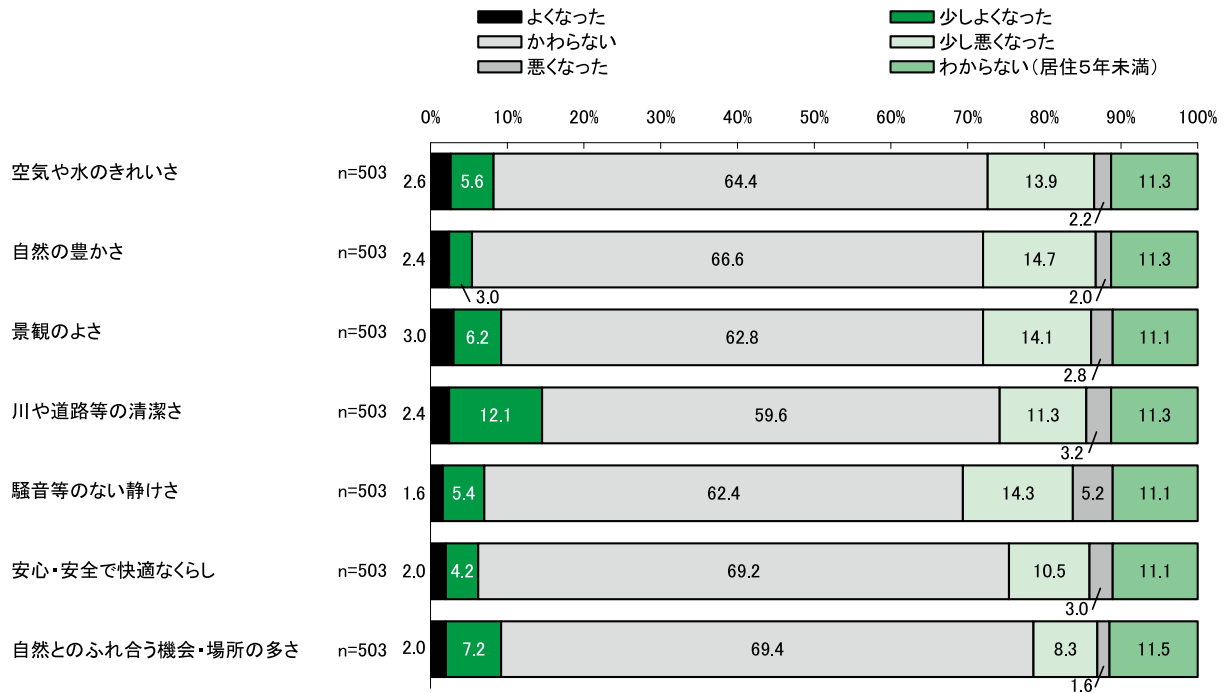
『不満（不満＋やや不満）』の回答の割合が高い項目は「川や道路、海岸等の清潔さ（20.9%）」「騒音等のない静けさ（17.5%）」となっている。

【環境基本計画策定にあたっての考え方】

- ・『不満』の回答の割合が高い「川や道路、海岸等の清潔さ」に対応するため、「循環型社会の形成」の中に、「海岸漂着物の適正処理体制の確保」等により反映

(2)環境の変化について

問2 あなたは、5年前と比較して、身近な環境の変化について、どう思いますか。(〇はそれぞれ1つ)



環境の変化については、『よくなった(よくなった+少しよくなった)』の回答の割合が高い項目は「川や道路等の清潔さ(14.5%)」となっている。

『悪くなった(少し悪くなった+悪くなった)』の回答の割合が高い項目は「騒音等のない静けさ(19.5%)」「空気や水のきれいさ(16.1%)」となっている。

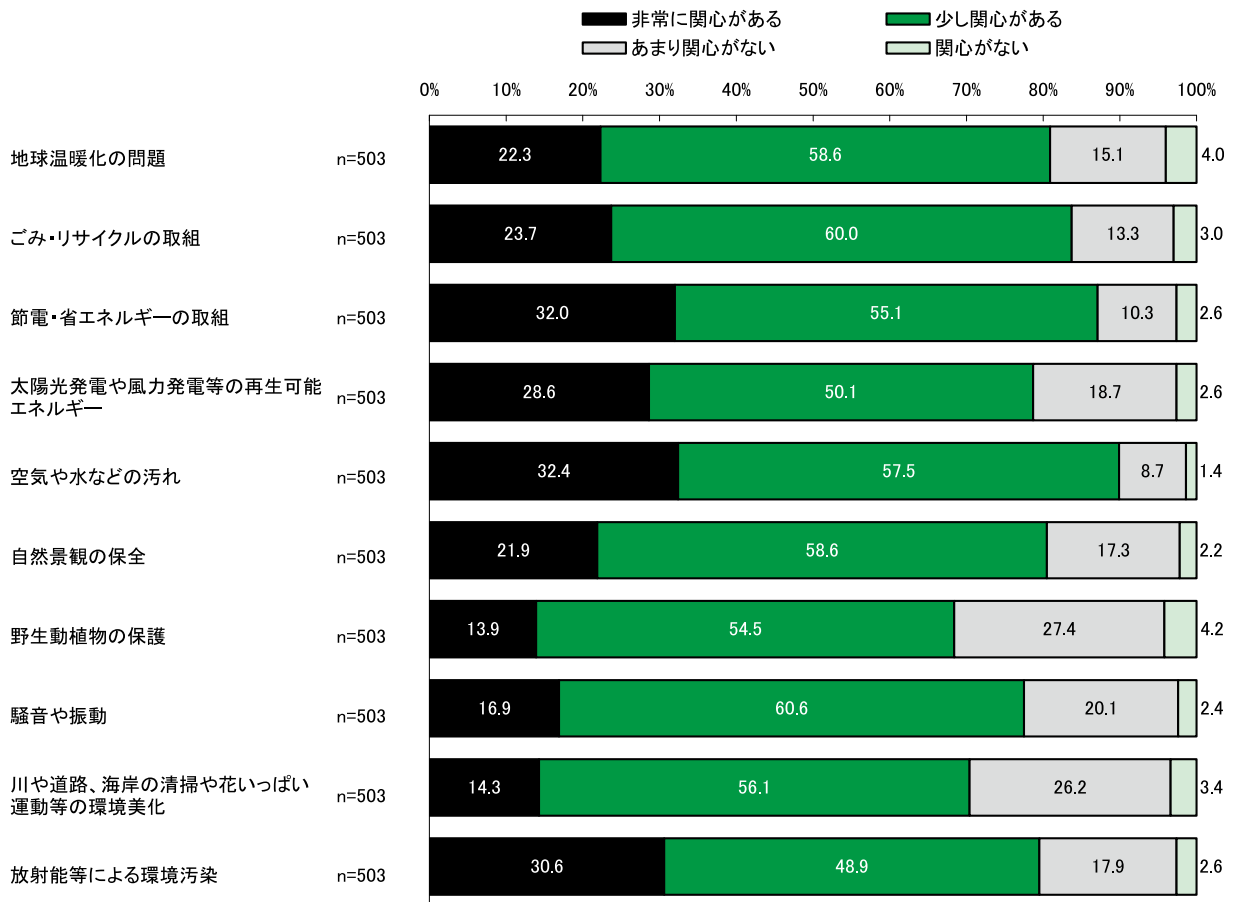
全ての項目において、約6割~7割の人が「かわらない」と回答している。

【環境基本計画策定にあたっての考え方】

- 『悪くなった』の回答の割合が高い「騒音等のない静けさ」「空気や水のきれいさ」に対応するため、「水・大気環境の保全」の中に、「工場・事業場騒音・振動対策の推進」・「生活排水対策の推進」等により反映

(3)環境問題への関心

問3 あなたはどのような環境の問題に関心がありますか。(〇はそれぞれ1つ)



環境問題への関心については、「非常に興味がある」の回答の割合が高い項目は、「空気や水などの汚れ (32.4%)」「節電・省エネルギーの取組 (32.0%)」「放射能等による環境汚染 (30.6%)」となっている。

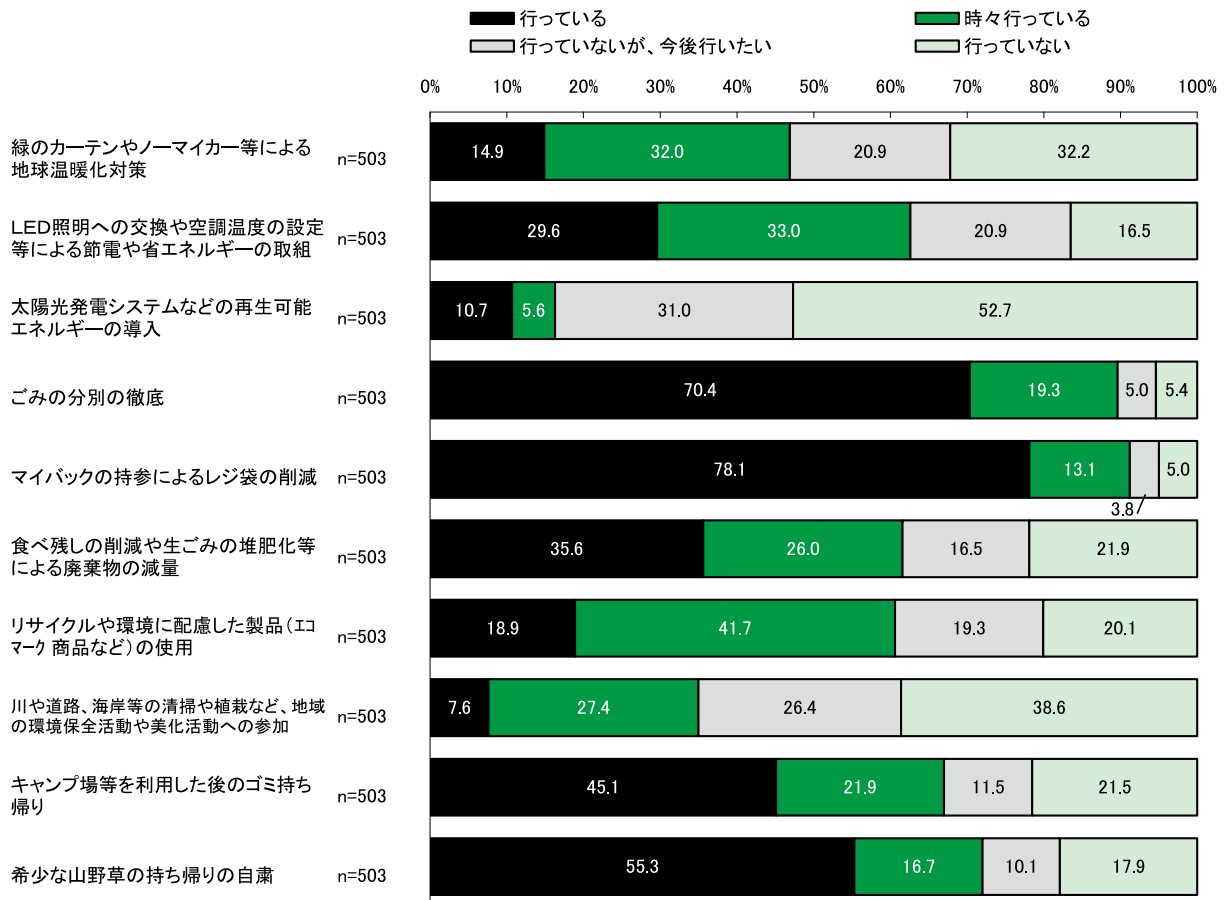
「あまり関心がない」の回答の割合が高い項目は、「野生動植物の保護 (27.4%)」「川や道路、海岸の清掃や花いっぱい運動等の環境美化 (26.2%)」となっている。

【環境基本計画策定にあたっての考え方】

- 『あまり関心がない』の回答の割合が高い「野生動植物の保護」に対応するため、「いのちと暮らしを支える生物多様性の保全」を大きな柱の一つに設定し、「行動できる人財の養成と多様な主体の取組の促進」により反映

(4)環境対策への取り組み

問4 あなたは環境を大切にするために、日頃行っていることはありますか。(〇はそれぞれ1つ)



環境対策に対する取り組みについては、「行っている」の回答の割合が高い項目は「マイバックの持参によるレジ袋の削減 (78.1%)」「ごみの分別の徹底 (70.4%)」となっている。

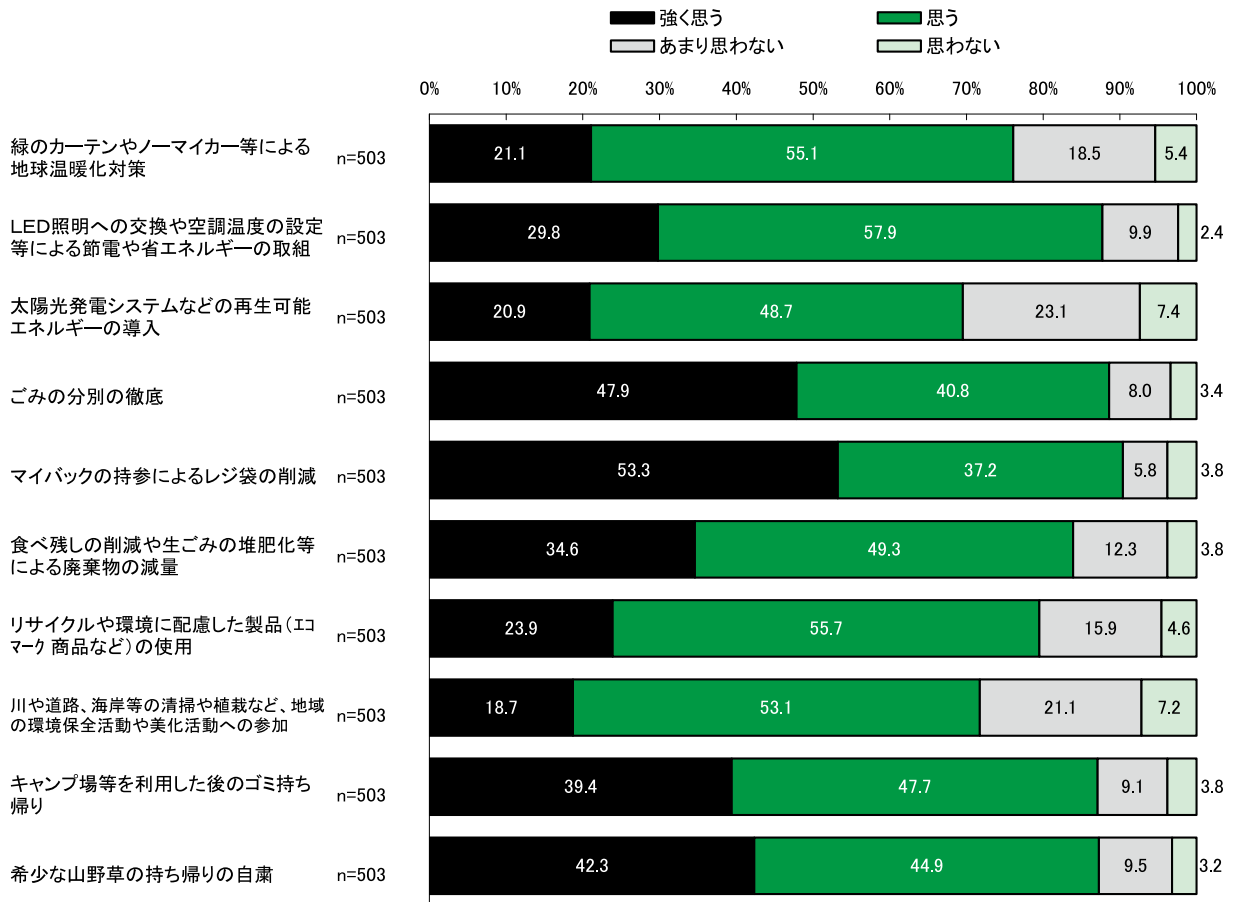
「行っていない」の回答の割合が高い項目は、「太陽光発電システムなどの再生可能エネルギーの導入 (52.7%)」「川や道路、海岸等の清掃や植栽など、地域の環境保全活動や美化活動への参加 (38.6%)」「緑のカーテンやノーマイカー等による地球温暖化対策 (32.2%)」となっている。

【環境基本計画策定にあたっての考え方】

- ・『行っていない』の回答の割合が高い「太陽光発電システムなどの再生可能エネルギーの導入」に対応するため、再生可能エネルギーの導入促進に向けた「総合的な取組の推進」「太陽光発電の普及拡大」等により反映

(5)環境対策への意識

問5 あなたは環境を大切にするための行動に取り組もうと思いますか。(〇はそれぞれ1つ)



環境対策への意識として、「強く思う」の回答の割合が高い項目は「マイバックスの持参によるレジ袋の削減 (53.3%)」「ごみの分別の徹底 (47.9%)」「希少な山野草の持ち帰りの自粛 (42.3%)」となっている。

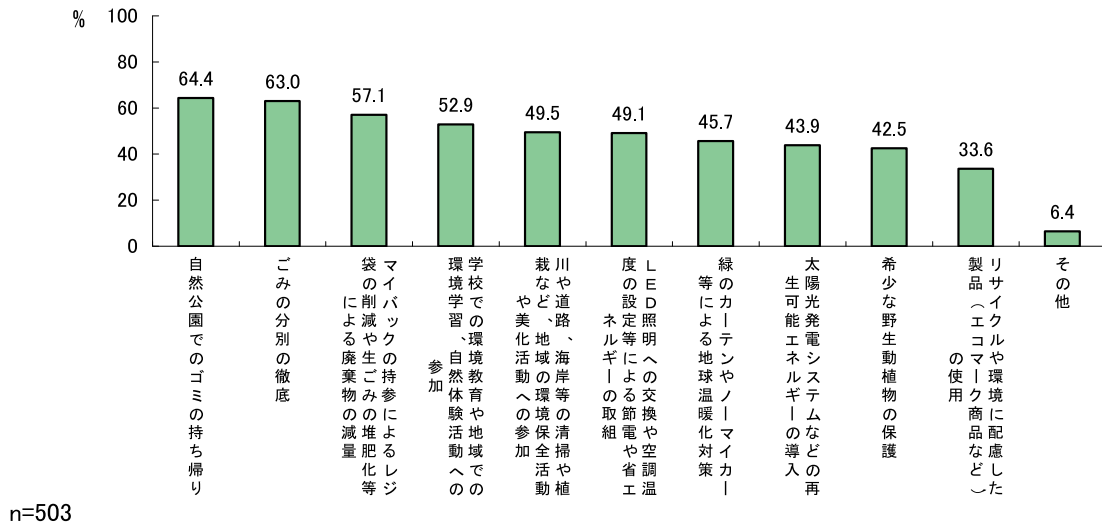
「あまり思わない」の回答の割合が高い項目は、「太陽光発電システムなどの再生可能エネルギーの導入 (23.1%)」「川や道路、海岸等の清掃や植栽など、地域の環境保全活動や美化活動への参加 (21.1%)」となっている。

【環境基本計画策定にあたっての考え方】

- 『行っていない』の回答の割合が高い「川や道路、海岸等の清掃や植栽など、地域の環境保全活動や美化活動への参加」に対応するため、「循環型社会の形成」の中で「海岸漂着物の適正処理体制の確保」により実践活動や普及啓発に取り組むとともに、「環境に関する人づくり・地域づくりの推進」の中で「里山、里海づくりの推進」等により反映

(6)環境保全・継承に対する取り組み

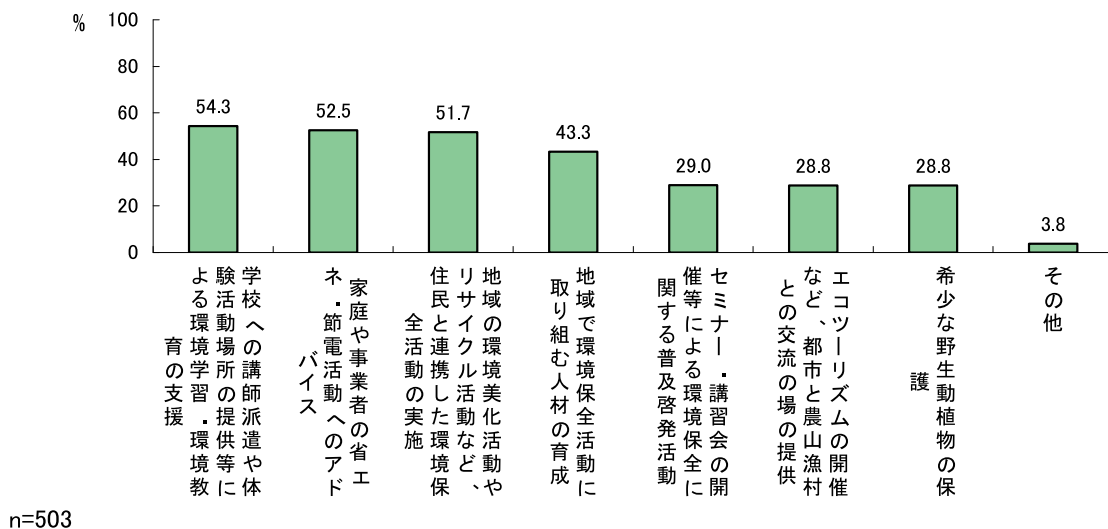
問6 あなたは山口県環境を守り、次の世代に引き継いでいくために、県民は何に取り組む必要があると思いますか。(〇はいくつでも)



県民が取り組むべき事項については、「自然公園でのゴミの持ち帰り (64.4%)」をあげている人が最も多く、次いで「ごみの分別の徹底 (63.0%)」「マイバックの持参によるレジ袋の削減や生ごみの堆肥化等による廃棄物の減量 (57.1%)」「学校での環境教育や地域での環境学習、自然体験活動への参加 (52.9%)」となっている。

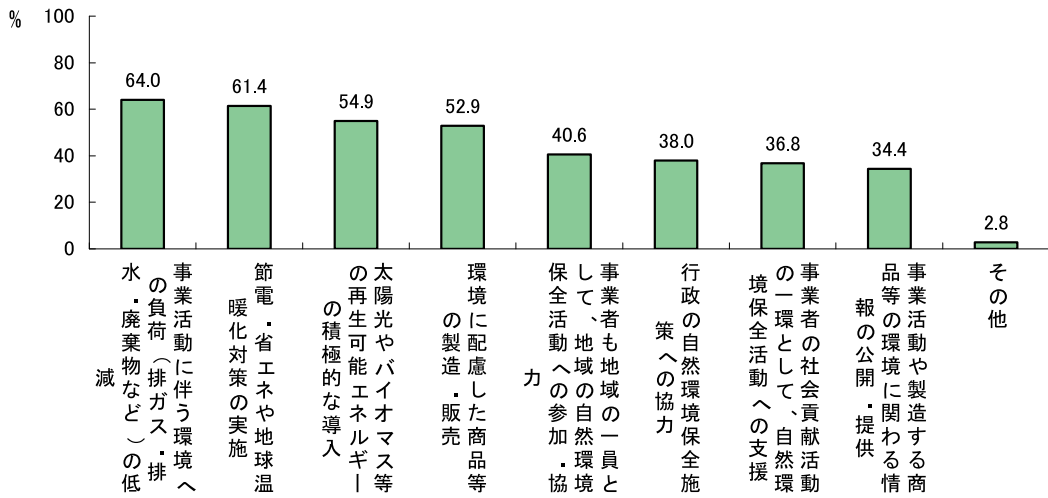
「その他」の意見として、「県民の意識改革、環境教育 (9件)」が最も多くなっている。

問7 あなたは山口県環境を守り、次の世代に引き継いでいくために、NPO等の環境活動団体は何に取り組む必要があると思いますか。(〇はいくつでも)



環境活動団体に取り組むべき事項としては、「学校への講師派遣や体験活動場所の提供等による環境学習・環境教育の支援 (54.3%)」をあげている人が最も多く、次いで「家庭や事業者の省エネ・節電活動へのアドバイス (52.5%)」「地域の環境美化活動やリサイクル活動など、住民と連携した環境保全活動の実施 (51.7%)」となっている。

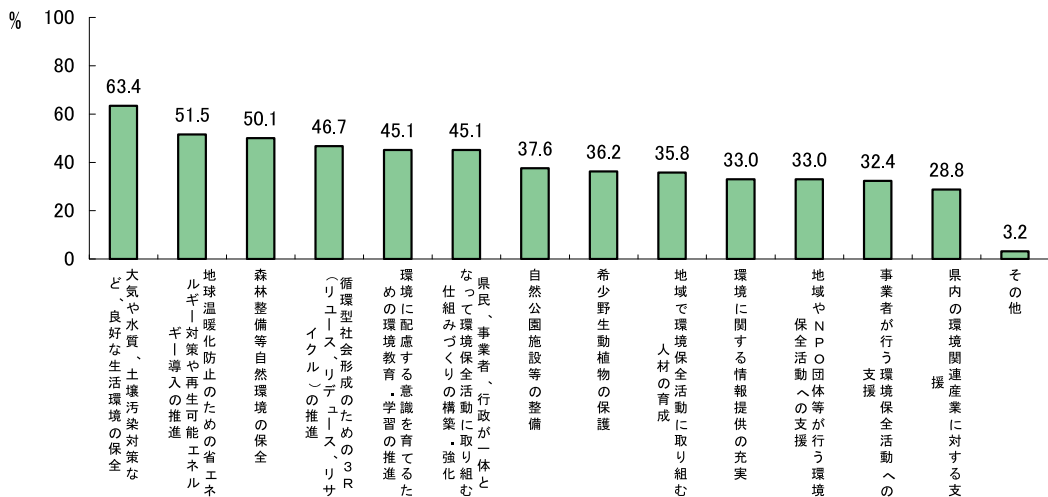
問8 あなたは山口県の環境を守り、次の世代に引き継いでいくために、事業者は何に取り組む必要があると思いますか。(〇はいくつでも)



n=503

事業者が取り組むべき事項としては、「事業活動に伴う環境への負荷（排ガス・排水・廃棄物など）の低減（64.0%）」をあげている人が最も多く、次いで「節電・省エネや地球温暖化対策の実施（61.4%）」「太陽光やバイオマス等の再生可能エネルギーの積極的な導入（54.9%）」「環境に配慮した商品等の製造・販売（52.9%）」となっている。

問9 あなたは山口県の環境を守り、次の世代に引き継いでいくために、行政機関（県や市町）は何に取り組む必要があると思いますか。(〇はいくつでも)



n=503

行政機関が取り組むべき事項としては、「大気や水質、土壌汚染対策など、良好な生活環境の保全（63.4%）」をあげている人が最も多く、次いで「地球温暖化防止のための省エネルギー対策や再生可能エネルギー導入の推進（51.5%）」「森林整備等自然環境の保全（50.1%）」となっている。

【環境基本計画策定にあたっての考え方】
 ・「第4章 各主体の役割分担と計画の推進」に意見を反映

(7)次世代に引き継ぎたいもの

問10 あなたが次の世代に引き継いで行きたい具体的な場所、取組などがあれば記入してください。(全角200文字以内)

取り組み	件数	具体的な場所	集計
自然環境の保護・育成	63	秋吉台・秋芳洞	26
ごみの削減、リサイクルの推進	27	錦帯橋	10
意識改革、教育	13	角島	7
清掃・美化活動	11	ときわ公園	5
農林業	9	青海島	3
節電・節約	8	きらら浜	3
再生可能エネルギーの導入、助成制度の整備	7	下関	3
原子力発電の廃止	6	関門海峡	2
無駄をなくす	4	長府	2
自然生物の保護	4	北長門	2
大気汚染・騒音	4	錦川	2
個人でできることをする	2	上関	2
地域での活動	2	千畳敷	2
法整備	2	江汐公園	2
マイバックの持参	1	長門峡	1
情報発信	1	大島沖のさんご礁	1
乱開発の防止	1	萩	1
町並み整備	1	秋穂海岸	1
観光客誘致	1	本郷村	1
下水道整備	1	竜王山	1
EM菌の普及	1	三谷の棚田	1
治安維持	1	錦町	1
合計	170	菊川湖	1
		羅漢山	1
		寂地峡	1
		井関川	1
		佐波川	1
		中須の棚田	1
		山口県外	2
		全て	5
		合計	92
抽象的なもの	集計		
公園	7		
歴史的建造物	4		
水質	1		
桜	1		
温泉	1		
島	1		
合計	15		

次世代に引き継ぎたいものとして、取り組みについては「自然環境の保護・育成(63件)」、具体的な場所については「秋吉台・秋芳洞(26件)」、抽象的なものについては「公園(7件)」が最も多くなっている。

【環境基本計画策定にあたっての考え方】

・「環境に関する人づくり・地域づくりの推進」の中の「里山、里海づくりを通じた良好な景観や歴史的環境の保全」等に意見を反映